

8月号 こどもの言動に隠された SOS を聴く

こどもが、突然発するきつい言葉や不安な表情など、これまでにない態度の変化は、自我の確立や環境への適応を担う「大切な成長のプロセス」であり、「SOS のサイン」でもあります。このようなこどもの気持ちにどのように寄り添うべきでしょうか。

1. 変化を否定しない

こどもの変化を「わがまま」「自分勝手」などと決めつけたり、感情的に評価せずに、ありのままの姿を受け入れることが第一歩です。

2. 「言動」ではなく「背景（環境）」に着目する

問題行動に見える変化も、こどもがストレスや生きづらさから自分を守るための、「自己防衛」である場合があります。

3. 複合的な原因を推察

背景にあるかもしれない、心身の疲労、環境変化、家庭や学校でのストレス、満たされないニーズなどに多角的に目を向けます。

4. 安全な居場所の確保

こどもの態度に関わらず、学習会は安心して過ごせる場所であると示し続けます。「どんな状態でもここにいていいんだよ」というメッセージを伝えて、自己肯定感が満たされる場所であると示します。

5. 傾聴する

大人の正論や先回りしたアドバイスは、こどもが心を閉ざす原因になることがあります。まずは「聴く：話す」を 8：2 ぐらいの割合として、こどものなかから自発的な言葉や変化が生まれるのを待ちます。

6. 一人で抱え込まない

こどもの急激な変化をスタッフ個人の責任やスキルで解決しようとする、支援の偏りや見落としなどのリスクがあります。必ず複数のスタッフや会場全体で情報を共有し、組織として均一かつ多角的な視点で対応します。

7. 他機関との連携

少しでも「危機（リスク）」を感じたら、速やかに指導員を通じてこども福祉課に報告します。関係機関と適切に情報共有・連携できる体制を整えます。